

## 「今後の東部地区の伝道協力について」

### 1. 東部中会75周年宣言

東部中会75周年宣言では、全体として「まじわり（コイノニア）を進める」ことを告白し、さらに同長期計画では、I. 東部中会の成長に向かって―「協力」して（二）地区伝道協議会と近隣教会の協力において、「地区伝道協議会の活用と新たな試みを模索し、各地区の教会相互の交流と支援を必要とする教会の再生に生かします。近隣教会との合併・所属・協力も視野に入れた協力関係を検討します」と告白しています。

今回の話し合いは、こうした長期計画に従って行っているということも言えますが、語られているから行うのではなく、今の教会にとって必要なことは何かを考えつつ、話し合いを持つ必要があることを認識して頂きたいと思っています。私たちは、与えられたことをただ受け入れるのではなく、自分自身で現状を理解し、御言葉からどのように対応することが求められているか考え続けることが求められています。

### 2. 教会の現状認識

教会の現状に関しては、皆さまも肌で認識されていることかと思いますが、伝道の停滞・高齢化・礼拝出席の減少が続いています。このことは、私が神学校に入学した30年前に、すでに始まっていたことであり、今まで教会が対応してこなかった事実を受け入れなければなりません。そしてこれに顕著化したのがコロナ禍の3年間、必要以上に交わることを恐れ、聖徒の交わりが減少したことです。

東部中会では、各教会の伝道は、各教会の責任において行うものであるとの認識があり、互いに隣の教会の状況を余り知らない状況にありました。これは明治期の宣教師を排除した日本人による自給伝道の意思が残っているものであり、本来の中会主義の持っている教会間の交わりを弱めていると思います。

またそれが可能であったのは、埼玉東部地区7教会において、一人欠けることがあったとしても、ほぼ7人の定住牧師がおり、定住牧師を欠く教会がほとんど無かったことを挙げるができるかと思っています。

### 3. 埼玉東部地区の今後

しかし今、多くの牧師が引退時期を迎え、若い牧師が減少していることを認識しなければなりません。一人の人が献身の志が与えられ、牧師として独り立ちするには、10年かかることを忘れてはなりません。そのため、近い将来（5年単位）に、7教会・伝道所には2～4名の牧師が兼牧することが常態化することを覚悟しなければなりません。

### 4. 他地区の現状

現在、北東北（盛岡・青森・六戸・八戸・札幌）には、2名の牧師です。潮田佑牧師（盛岡）は、六戸・八戸の代理であり、各々月一度（主日の午後）説教奉仕と伝道所委員会の

開催のために各々の伝道所に訪問しますが、毎週の礼拝は、通常はテープにて行っています。貫洞賢治牧師（札幌）は、青森の代理ですが、月一度（水曜日・木曜日）訪問し、水曜に礼拝説教を行い、木曜日に伝道所委員会・女性会を行っています。そして毎週の礼拝は、かつてはオンラインで札幌とつないで行っていましたが、トラブルもあったことから、現在では録画の配信を受けて、礼拝を守っています。そして過去を引きずっている関係で、教会間の交わりはできていない状況にあります。

甲信地区（山梨栄光・上諏訪湖畔・長野・佐久）は、年二回（大会終了の直後：6月・10月）に講談交換と同日の午後に合同役員会を開催しています。年に一度の合同修養会も行われており、今後、定期的な合同小会（役員会）を開催することも視野に入れていきます。

## 5. 意識改革をせよ！

今、埼玉東部地区において求められているのも、定住牧師が減っても、各教会の会員が、安心して、信仰生活を継続させるために、どのようにすべきかを話し合い、互いに理解し合うことです。そのために今までのように、各教会・各伝道所が伝道の責任を持つのでは無く、地区の交わりの内に、相互理解・相互牧会を行うことです。そのために、牧師は、一国一城の主に留まっていたはずはならず、共同牧会の意識が求められます。各教会の会員（特に長老・伝道所委員）は、何事も牧師任せにしておくことなく、教会・伝道の責任を、担う意識をもつことです。こうした意識改革を、各自が持たなければ、今後、教会は衰退して行くのを待つばかりです。

そして共同牧会の意識、つまり、一人の牧師が、2つ・3つの教会・伝道所の責任をもつ（代理となる）のですが、実際には2～4名の牧師が、7つの教会・伝道所の責任を共に責任をもち、共同牧会（説教奉仕）を行い、そこに各教会の長老・伝道所委員も加わっていくことが求められているのではないのでしょうか。

そのために、現在ではペンテコステ集会しかもたれていない地区の交わりを増やすこと、さらには合同役員協議会（連合小会）を定期的に開催し、相互交流・無牧教会の説教者の確保などを行っていくことが必要かと思います。

今こそ、中会や教師の間で決まったことをただ受け入れるのではなく、それぞれが思っていることを話し合い、一致をもって行動することが求められています。